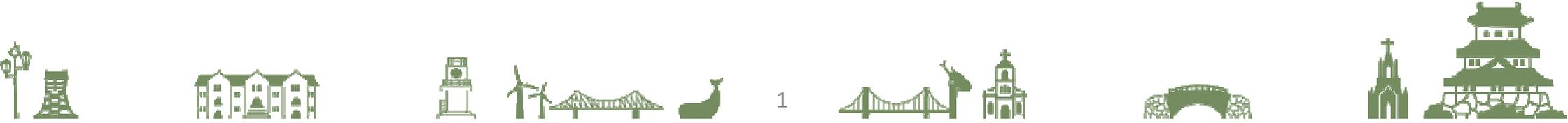


# 地方創生推進交付金の活用について



# 地方創生推進交付金の制度概要

本格的な事業展開の段階を迎えた地方創生について、更なる深化のため、地方創生推進交付金により支援

- ①地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援
- ②K P I の設定とP D C Aサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援
- ③地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保

## 1. 本交付金の予算規模（平成31年度予算概算決定額）

1,000億円（事業費ベース2,000億円程度：補助率1/2）

## 2. 交付金額（市区町村の場合）

先駆タイプ …… 1事業あたり2億円（事業費ベース4億円）

横展開タイプ…… 1事業あたり7,000万円（事業費ベース1.4億円）

## 3. 対象事業

各地方公共団体において、それぞれの地方版総合戦略に位置づけられた事業全般を対象とする。

具体的な例としては、以下のとおり。

- i しごと創生 …… ローカルイノベーション、ローカルブランディング（日本版DMO※、地域商社、ローカルサービス生産性向上等）
- ii 地方への人の流れ …… 移住促進、生涯活躍のまち、地方創生人材の確保・育成等
- iii 働き方改革 …… 若者雇用対策、ワークライフバランスの実現等
- iv まちづくり …… コンパクトシティ、小さな拠点、まちの賑わいの創出、連携中枢都市等

※DMO…Destination Management Organization（デスティネーション・マネジメント・オガニゼーション）の略で、経営の視点を持ち、魅力ある観光地域づくりを主導的かつ持続的に推進し、新たな観光市場を創造する組織のこと。



事業の目的

2020年の三浦按針没後400年を契機として、関連事業を官民一体となり実施することにより、地域への愛着と誇りの醸成を図るとともに市民活動の活性化を行う。

背景(課題)

- 18歳から24歳を中心とした転出超過が恒常的に続いている。
- 国のまち・ひと・しごと総合戦略においても、「地元への愛着がUターン希望を左右する」としていることから、郷土愛の醸成が若者の定住に直結するものと考えられる。
- 全国的な移住ブームもあり、移住者が大幅に増加している中、今後は移住者の定住化を図っていかねばならない。

事業の概要

2020年の三浦按針没後400年を契機として、交流事業、啓発事業、調査事業、整備事業を官民一体で行うことにより、郷土愛の醸成と交流人口の拡大を行う。また、按針が繋いだ4都市(臼杵市、伊東市、横須賀市、平戸市)やイギリス、オランダ等の按針縁の人々と交流することにより、按針の功績を顕彰し全国に発信する。

期待される効果

- 郷土愛を醸成することにより、若者の定住やUターンを促す。
- 近年増加している移住者に本市の魅力を伝えることにより、定住化を図る。
- 市民活動の活性化を図ることにより、活気に溢れたまちづくりを行う。

事業内容

- 2019年度実施事業
  - 交流事業
    - コックスの甘藷畑活用事業
    - ANJINこども英会話
    - 按針トレイル招致事業
  - 啓発事業
    - 記念式典・サミット開催準備
    - 歴史資料展示及び複製作成
    - 三浦按針教材作成
    - 按針文書調査
    - 按針はがき絵国際コンクール
    - アダムス文庫(平戸図書館拠点化)
    - 按針イラストコンテスト
    - パンフレット、観光PR素材作成等
  - 調査事業
    - 伝按針墓地発掘調査
  - 整備事業
    - 按針塚環境美化
    - バラ園整備事業
- 2020年度実施予定事業
  - 交流事業
    - コックスの甘藷畑活用事業
    - 按針忌
    - ANJINこども英会話
    - メドウェイ市市民訪問団派遣
    - 按針トレイル招致事業
  - 啓発事業
    - 記念式典・サミット開催
    - 歴史資料展示
    - 按針はがき絵国際コンクール
    - アダムス文庫(平戸図書館拠点化)
    - 按針壁新聞コンクール開催
- 2021年度実施予定事業
  - 交流事業
    - ANJINこども英会話
  - 啓発事業
    - 按針はがき絵国際コンクール

KPI(主要業績評価指標)

- 本プロジェクトにかかる交流人口  
H29 270人 ⇒ H33 2,000人
- 市民団体が主催する事業への参加者数  
H29 225人 ⇒ H33 705人
- これからも平戸市に住み続けたいと思う人の割合  
H29 49.6% ⇒ H33 61.6%



事業の目的／

国内初となる城内施設を活用した城泊を中心とする体験滞在型コンテンツの充実を図ることにより観光客拡大を行い中心市街地から活力を取り戻すとともに市内全域の経済活性化に繋げる。

背景（課題）／

- 本市の主力産業である観光産業は、入込客数が昭和52年の198万人をピークに減少し続けている。
- 本市の半数以上の宿泊施設や飲食店が集中している中心市街地における主要観光施設である松浦史料博物館やオランダ商館の入館者数は、ここ5年間で急速に減少している。
- 主要観光施設であり観光周遊ルートの中核となっている平戸城については、年間7万人の入館者があり市内の観光施設ではトップクラスの集客力があるものの、ピーク時の1/3まで減少している。

事業の概要／

現在倉庫となっている平戸城懐柔櫓を改修し、日本100名城初となる城の宿泊施設としてリニューアルすることにより、本市の新たなキラコンテンツを造成するとともに、マーケティング調査分析に基づく新たなインバウンド戦略の立案や満足度調査の実施等の取り組みを行い平戸版DMOの形成・確立を行う。

期待される効果

- 平戸城の宿泊施設化によりインバウンドに訴求される体験滞在型コンテンツを造成することで、競争力の高い観光地が形成され、地域の誘客力を高めることができる。
- 平戸城宿泊化による観光客の増加を一時的なものではなく、持続的なものとなるよう、平戸版DMOを形成・確立することにより地域の関係者を巻き込んだ推進体制が構築される。

事業内容／

- 2019年度実施事業
  - 平戸版DMO形成確立事業  
マーケティング調査業務
  - 平戸城宿泊施設整備事業  
宿泊施設コンサルティング・改修業務  
耐震診断及び耐震補強工事  
宿泊施設設計及び改修工事
- 2020年度実施予定事業
  - 平戸版DMO形成確立事業  
PRプロモーション業務  
旅行商品化事業
- 2021年度実施予定事業
  - 平戸版DMO形成確立事業  
PRプロモーション業務  
旅行商品化事業



日本100名城初となる城の宿泊施設  
(平戸城懐柔櫓)



2017年度に実施した平戸城宿泊施設実証実験（1日城主）

KPI（主要業績評価指標）

- 宿泊客数  
H29 231,493人 ⇒ H33 278,893人
- 観光消費額  
H29 9,879,253千円 ⇒ H33 10,479,253千円
- 平戸城懐柔櫓宿泊に関する満足度  
H29 0.0% ⇒ H33 71.0%
- 平戸城の入館者数  
H29 67,965人 ⇒ H33 91,754人



平成31年度地方創生推進交付金活用事業  
**県及び県内市町と連携して実施する事業**

**H31当初予算概算要求  
 (うち、交付金の額)**      43,524千円  
 (21,762千円)

【担当課】 観光課

**事業名／**  
 観光とスポーツを核とした「稼げる観光産業」創出プロジェクト

- 事業内容／**
- 観光人材育成プログラム事業  
 観光人材育成及びマーケティング調査
  - 平戸版DMO推進事業  
 DMO立ち上げに要する経費
  - 世界遺産登録推進受入環境整備事業  
 構成資産を回る周遊バスの運行
  - 公共交通機関利用促進事業  
 外国人宿泊客を対象としたレンタカー代の助成

**H31当初予算概算要求  
 (うち、交付金の額)**      1,336千円  
 (668千円)

【担当課】 商工物産課

**事業名／**  
 若者・女性が輝く長崎県版働き方改革プロジェクト

- 事業内容／**
- 地場企業就職促進事業  
 合同企業面談会、企業見学バスツアーの開催

**H31当初予算概算要求  
 (うち、交付金の額)**      2,000千円  
 (1,000千円)

【担当課】 商工物産課

**事業名／**  
 地域課題解決型移住・定住促進事業

- 事業内容／**
- 中小企業等設備投資・創業支援対策事業  
 雇用創出チャレンジ支援事業  
 1件あたり対象事業費600万円のうち、市負担分200万円  
 (県1/3、市町1/3、事業者1/3)

**H31当初予算概算要求  
 (うち、交付金の額)**      722千円  
 (361千円)

【担当課】 地域協働課

**事業名／**  
 小さな楽園拡大連携プロジェクト

- 事業内容／**
- 定住促進対策事業  
 移住サポートセンター負担金